

海外調査報告

サトイモの郷・甲仙

外間 数男

Kazuo HOKAMA: Town of the taro · Jiasian, Taiwan.

はじめに

台湾高雄県のすべての市鎮郷は、2010年に高雄市と合併した。高雄県は消滅し、甲仙郷も甲仙区となった。甲仙区は高雄市の都心から直線距離で約60kmに位置し、玉山山脈の南端の丘陵地にある。

甲仙はサトイモの町として知られている。しかしサトイモが町の特産品として脚光をあびたのは、それほど古くはない。南部横貫公路が開通してからである。南部横貫公路は1972年に開通した。台南市玉井を拠点として甲仙を通り、中央山脈を越えて台東市に至る209kmの高山道路である。甲仙は高山道路の上り口にあり、「入山遊覧證副本」の提出、一時の休憩地となっている。



図1. 甲仙大橋のたもとにある巨大なサトイモ。橋は2009年の豪雨で決壊し、2010年に再建された。

甲仙の市街地は、甲仙大橋を渡った直ぐのところにある。橋のたもとには巨大なサトイモが立ち（図1）、その奥には芋の文字が林立する。200m程の通り沿いには土産店、ホテル、コンビニが並び（図2）、十数軒ほどある土産店の殆どは芋を冠した看板を掲げている（図3）。土産店にはサトイモ饅頭、菓子（図4）、氷菓子がメインとなり、路端ではサトイモが売られている（図5）。街はサトイモ一色である。



図2. 甲仙の街並。
芋を冠した看板が林立する。



図3. 甲仙の土産店。



図4. サトイモ菓子.



図5. サトイモの露天販売.

サトイモの街もかつては、旗山郡のなかでも人口の少ない寒村であった。村役場も維持できないほど財政はひっ迫していたという。しかし近年、人口は増加傾向を示し、農業従事者の割合は減少したが、第2、3次産業の従事者が増えてきた。

地方からの人口流出、過疎化、高齢化は、地方の存亡にもかかわる重要な問題である。その打開策として地域おこしが叫ばれてきた。危機に瀕する地方の経済立て直し、地域活性化に有効な手段として地域おこしが注目されている。地域おこしは地域の素材がなければできない。その掘り起こしが鍵をにぎっている。甲仙はサトイモが地域おこしにつながった一例である。地域おこしに何らかの示唆が得られるかもしれない。甲仙の現況を報告する。

1. 地域の概要

高雄市の面積は2,946.1km²と沖縄県よりやや大きい。台湾の南西海岸から北東の玉山に至る広大な面積を擁し、その長さは約120kmに及ぶ。市の南側は嘉南平野の南端にあり沖積平野を形成し、肥沃な農耕地帯になっている。しかし市の52.6%は玉山山脈と中央山脈の山岳地帯が占める。平地は26.3%であり、丘陵地が21.2%となっている。甲仙の北、東側には広大な山岳地帯が広がっている。

甲仙は阿里山山脈と玉山山脈の間を流れる旗山溪沿いにあり、山岳地帯への上り口に位置する。旗山溪は玉山(3,952m)に源を発し高屏溪につながる。高屏溪は長さ170.9kmと台湾2番目の長さであり、流域面積は台湾最大である。甲仙は旗山溪に沿って東西5.3km、南北22.6km、面積は119.8km²である。

甲仙は内陸の丘陵地にあることから、沖積地の高雄と気象条件は大きく異なるが、当該地域の資料がないことから高雄の気象を表1に示した。また甲仙から距離的に近い台南の気象も表中に示した。

高雄の年平均気温は24.7℃、降水量は1,784.9mm、台南はそれぞれ25.0℃、2,017.5mmである。那覇は23.1℃、2,040.8mmで、平均気温で約2℃の違いがあるが、降水量は差がない。しかし雨の降り方は大きく異なり、高雄、台南は夏場の6～8月に雨が多く、年間降水の70%近くがこの時期に降る。11月から翌年の2月までは雨が極めて少なく、月間降水量は20mm前後にすぎない。これに対し那覇は、6～8月の降水量が年間降雨の約30%、冬場でも100mm余りの降水がある。高雄、台南は夏雨、冬乾燥型、那覇は冬雨、夏乾燥型である。

甲仙は旗山溪沿いの丘陵地にあることから平地が極めて少ない。土壌は溪沿いの沖積土と丘

表 1. 台湾と沖縄の月別平均気温と降水量¹⁾.

地域	項目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
那覇	平均気温	17.0	17.1	18.9	21.4	24.0	26.8	28.9	28.7	27.6	25.2	22.1	18.7
	降水量	107.0	119.7	161.4	165.7	231.6	247.2	141.4	240.5	260.5	152.9	110.2	102.8
台北	平均気温	15.8	15.9	18.0	21.7	24.7	27.4	29.2	28.8	27.1	24.3	20.9	17.6
	降水量	86.5	165.7	180.0	183.1	258.9	319.4	247.9	305.3	274.6	138.8	86.2	78.8
基隆	平均気温	15.8	15.8	17.6	21.1	24.2	27.1	29.0	28.6	26.8	24.0	20.8	17.6
	降水量	335.8	399.0	332.3	240.9	296.1	286.7	150.4	212.8	360.8	413.4	394.7	332.1
台南	平均気温	17.4	18.2	21.1	24.5	27.0	28.4	29.0	28.5	28.0	25.9	22.4	18.8
	降水量	19.9	28.8	35.4	84.9	175.5	370.6	345.9	417.4	138.4	29.6	14.7	11.3
高雄	平均気温	18.8	19.7	22.3	25.2	27.2	28.4	28.9	28.3	27.9	26.4	23.4	20.2
	降水量	20.0	23.6	39.2	72.8	177.3	397.9	370.6	426.3	186.6	45.7	13.4	11.5

1) 那覇：1981～2010年, 台湾：1971～2000年

陵地の黄褐色土壌からなる。土壌は土層が浅く、地力の低い酸性土壌である（石，1999）。

甲仙区の人口は8,494人，2,594戸（2006）。第1次産業が58.1%を占め，第2，3次産業が41.9%である。1次産業は殆ど農業者である。耕地面積は1,442ha。そのうち水田は383ha，畑が1,059haである。

2. 台湾の農業とサトイモ生産

台湾の面積は35,980km²と，九州よりやや小さいが，耕地面積は85.5万haと九州の59.8万haに比べて大きい。耕地率は22.9%である。台湾における農業の生産額は1,706億元で，全農林水産業の43.6%を占める。農業のなかでは，

表 2. 台湾の農業生産額¹⁾.

項目	億元	
	生産額	割合(%)
農 業	1,706.0	43.6
稲	367.8	9.4
雑 種	89.8	2.3
特用作物	129.3	3.3
蔬 菜	399.7	10.2
きのこ	21.4	0.6
果 実	603.9	15.5
花 き	94.1	2.4
畜 産	1,299.3	33.2
林 業	5.9	0.2
魚 業	898.1	23.0

1) 中華民国88年農業統計年報：行政院農業委員会（2000）

果樹が603.9億元と最も多く，次いで蔬菜の399.7億元，稲の367.8億元となっている（表2）。

また地域別の農業生産額は，雲林県の240.7億元で最も多く，次いで彰化県の206億元，台南県の186億元となっている。高雄県は98.3億元で，農林水産全体の36.9%は農業が占める（表3）。

表 3. 台湾の地域別農業生産額¹⁾.

地 域	億元		
	農林水産業 全生産額	農業生産額	農業生産額 (%)
台 北 県	71.7	19.4	27.0
宜 蘭 県	105.3	36.8	34.9
桃 園 県	90.8	45.1	49.7
新 竹 県	64.1	38.6	60.2
苗 栗 県	98.8	64.8	65.6
台 中 県	184.8	136.4	73.8
彰 化 県	423.6	206.0	48.6
南 投 県	214.3	169.7	79.2
雲 林 県	467.6	240.7	51.5
嘉 義 県	293.3	157.2	53.6
台 南 県	388.6	186.0	48.9
高 雄 県	266.8	98.3	36.9
屏 東 県	465.8	151.8	32.6
台 東 県	92.6	68.9	74.5
花 蓮 県	76.3	57.8	75.8
膨 湖 県	22.8	0.7	3.0
市 区 等 ²⁾	582.1	27.8	4.8
合 計	3909.3	1,706.0	43.6

1) 中華民国88年農業統計年報：行政院農業委員会（2000）

2) 台北，高雄，基隆，新竹，台中，嘉義，台南市と圏外補給港など

サトイモの生産は栽培面積、生産量とも1990年をピークとして減少傾向を示し、1999年の生産量は1990年のほぼ半分である(表4)。1980年代から果樹、花き類の生産増に対し、普通作物は減少傾向を示している。台湾の農業は1990年代から多品目の生産にかわり、そのことで普通作物・サトイモが減少したと思われる。

表4. 台湾におけるサトイモの栽培面積・生産量の推移¹⁾。

年度	栽培面積 (ha)	生産量 (t)	生産額 (百万元)
1953	3,314	17,636	11.7
1955	4,083	20,718	19.7
1960	3,904	22,577	42.1
1965	3,526	21,613	46.4
1970	2,844	20,428	59.9
1975	2,960	27,110	144.5
1980	4,407	45,393	318.4
1985	5,139	62,029	682.3
1990	5,477	76,361	1,007.9
1991	4,189	69,735	1,046.0
1992	4,220	76,215	685.9
1993	3,098	55,638	778.9
1994	2,635	43,015	559.2
1995	2,922	53,693	724.8
1996	2,478	37,437	531.6
1997	2,715	38,034	540.1
1998	2,702	42,584	604.7
1999	2,651	43,051	611.3

- 1) 中華民国88年農業統計年報：行政院農業委員会 (2000)
 中華民国87年農業生産統計提要：行政院農業委員会 (1999)

サトイモの生産量は表5に示すように、屏東県、苗栗県で1万トンを越し、台中県の8千トンが続く。この3県で全生産量の72%を占める。高雄県は1,025トンと全体の2.4%にすぎないが、甲仙はサトイモの産地として名を馳せている。その他、大甲(台中)、國姓(彰化)、金山(台北)、高樹(屏東)、吉安(花蓮)もサトイモ産地として知られているが、甲仙には及ばない。

表5. 台湾におけるサトイモの地域別生産量¹⁾。

地域	栽培面積 (ha)	生産量 (t)	ha当り収量 (kg/ha)
台北県	135	1,344	9,920
宜蘭県	21	439	21,138
桃園県	5	59	11,940
新竹県	43	510	11,797
苗栗県	512	10,706	20,915
台中県	604	8,635	14,300
彰化県	63	1,103	17,398
南投県	35	701	20,128
雲林県	11	228	20,796
嘉義県	32	372	11,810
台南県	42	1,024	24,682
高雄県	61	1,025	16,673
屏東県	731	11,891	16,270
台東県	120	943	7,894
花蓮県	216	3,851	17,857
澎湖県	—	—	—
市区等 ²⁾	20	220	10,327
合計	2,651	43,051	16,252

- 1) 中華民国88年農業統計年報：行政院農業委員会 (2000)
 2) 台北, 高雄, 基隆, 新竹, 台中, 嘉義, 台南市

3. 生産者への聞き取り

甲仙のサトイモ生産農家への聞き取りは2001年1月に行った。聞き取りに当たっては、甲仙農会に依頼し、林明傳氏を紹介してもらった。林さんは当時65歳。子供の頃から農業を手伝い、サトイモを栽培して50年余りになる。現在5haの農地を所有し、大部分はタケノコ栽培であるが、サトイモを0.5ha栽培している。その他に龍眼、果物の栽培を行っている。

林氏は嘉義県竹崎の生まれ。兄弟が多く、農地の分配は少なかった。嘉義県ではタケノコをつくり、乾燥製品を日本に輸出していた。しかし1972年の日中国交回復に伴い、台湾産タケノコは価格が暴落し、輸出も難しくなった。そのことが甲仙へ移住する契機になったという。

甲仙でサトイモを本格的に栽培したのは私が

最初であると話す。移住した当初の甲仙は、茅葺き屋根の集落で、川には吊り橋がかかり、道は悪く、砂利道で電気もなかった。電化製品はラジオのみであった。南部横貫公路が開通してから街はかたちづくられていったという。

南部横貫公路は1972年に全線開通したが、路床が不安定で落石、崖崩れも多く、しばしば断絶することがあった。1992年に全線舗装工事が終わり、玉山国家公園整備の一環として沿線には観光施設などが整備されてきた。現在観光スポットとして人気ルートになっている。

甲仙に移住して3年目頃から、町は賑やかになり、サトイモの消費も拡大してきた。それ以前は、収穫物の殆どを大都市（北）に移送され、地元での消費は極めて少なかった。現在地元での需要が多く、甲仙産だけでは足りずに、高樹からも導入している。

地元産はすべて甲仙で販売している。甲仙産のサトイモは品質が良く、高価格で取引される。サトイモの産地として評価は高い。甲仙産というだけで価格は高くなる。甲仙産のサトイモは、標高の高いところで栽培しているから品質が良い。高樹は平地にあり地下水位が高く、サトイモ栽培にはむかないが、水芋栽培に適し、その栽培も多い。

8年前に日本の商社がサトイモの輸出契約をすることになったが、価格の点で折り合いがつかず契約できなかった。価格の高い点で輸出ができなかったという。現在、早掘りタケノコを「甲農」マークを付けて日本に輸出している。この地はショウガの産地でもある。またハヤトウリをこの地で最初に栽培したともいう。

現在甲仙でサトイモを作っている農家は300戸ほど。生産農家は高齢化しているが、サトイモは体が動く限りつくっていきたいと林氏は話す。

4. サトイモの栽培法

林さんのサトイモ栽培は次のとおりである。

圃場の耕起：小型耕耘機を用いて行い、溝掘りもするが、鋤を利用することも多い。畦幅は1m、株間50cmである。

植付け法：溝植えとし5cm覆土する。種芋は頂芽がやや横向きになるようにするのがコツで、芋肥大に良好である。縦植えは徒長する傾向にあり、長い経験から得られた結論であるという。

培土：1回だけ。時期は生育の状況をみて判断する。

品種：檳榔心、抱子（ポーキャン）。檳榔心は芋が丸く、親芋タイプで栽培の多い品種。抱子は芋が長く、子芋の多い子芋タイプ。赤芽は葉柄の赤い品種で畑地のみで栽培する。水芋は年中栽培している。

種芋：畑の隅に残し、子芋の多い株を苗として残す。種芋の貯蔵はしない。貯蔵代わりに通風の良いところに放置する。

植付け時期：12月末頃から2月頃。気温が高いと植付けは早まる。一般的には2月植えが多い。

肥料：基肥は堆肥のみ。鶏糞、豚糞などを混ぜて施用する。化学肥料は培土の前に入れる。複合555を1回だけ追肥する。生育状況をみながら硫安、尿素のいずれかを入れることもある。植付け3ヶ月以降は追肥しない。追肥をすると品質が悪くなる。

管理：雨時や雨の後は畑に入らない。病気（疫病）が多くなる。薬剤防除はしない。同じ畑では2回しか栽培しない。その後1年間休閑する。土壌病害虫の発生に問題があり、2年連作が限度である。休閑中は畑を放置するだけで、何も栽培しない。

収穫：収穫は中秋の頃になる。収穫期間は4

ヶ月ほど要し、鋤で収穫する。土が柔らかいので難しくない。

販売：収穫物は卸売・小売と青田買いがある。青田買いは生育状況を見ながら芋の品質を評価し買い取られる。業者が畑をまわり、生育状況を見て価格を交渉し決める。卸売・小売は重量販売となる。生育が悪い時は青田買いに向け、良い時は重量販売する。また気象条件が悪いと判断されると青田買いにする。価格は農家と業者の駆け引きで決定される。また市場価格も基準になり、消費動向も加味される。

露店でも里芋が販売されているが、家族2名ではできない。4ヶ月ほど露店で販売される。週休2日になって露店で販売が増加していることを聞いているという。

おわりに

甲仙は、台南市玉井から台東市へ抜ける高山道路の上り口にある。南部横貫公路は標高1,000mを越す高山道路。1972年に開通したが、路床が悪く、落石で断絶が頻発した。1992年に全線舗装され、周辺整備が加速したことで観光客も増加してきた。甲仙は高山地域への入り口であり、難所に挑む身支度をする場所である。そこに街並みが形成された。

甲仙は、現在高雄市甲仙区。かつては旗山郡甲仙庄であった。昭和12年の旗山郡勢要覧（旗山郡、1937）によると、甲仙と聞けばへき地を思い浮かべるが、旗山から車で1時間20分ばかりである。台南と境界をなす山陵を背にし、楠梓仙溪一帯の狭長なる流域を占め、起伏の多い山岳地をなし、農耕地は狭小で、貧弱な寒村である。財政は独立できず、一般補助を受け辛うじて維持されている。住民の殆どは平埔族で、農産物は米、甘藷、甘蔗、筍であると記されている。

昭和11年の甲仙庄の耕地面積は496甲（田333、畑163）で、美濃庄のほぼ1/10、内門庄、杉林庄のほぼ1/4である。旗山と甲仙間は州指定道路であるが、楠梓仙溪には架橋のないところがあり、雨期には交通不便となる。州事業として山間部に道路建設が計画され、それができたら本庄も開発されるであろうとしている。

表6に旗山郡の地域別人口を示した。1936年の甲仙の人口は2,775人、1959年には5,916人、2006年に8,494人と増加している。他の鎮郷に比べて増加率は高い。また日本統治時代に蕃地と呼ばれた茂林郷、桃源郷、ナマシア郷は1936年に5,676人、1959年には5,032人と減少し、2006年には3郷合わせて10,205人と、45年間でほぼ2倍に増加している。この3郷は交通の不便なへき地で、先住民の居住地である。衣食住及び医療、道路、交通などインフラ整備が進み、統計精度の高まったことで人口増につながったと思われる。

表6. 旗山郡の地域別の人口。

地域	1936年 ¹⁾	1959年 ²⁾	2006年 ³⁾
旗山鎮	22,999	40,726	41,616
美濃鎮	24,878	46,750	44,671
六龜郷	6,251	14,039	16,029
杉林郷	7,064	13,117	11,656
甲仙郷	2,775	5,916	8,494
内門郷	11,041	17,115	16,785
茂林郷	5,676	1,010	1,820
桃源郷		2,636	4,924
ナマシア郷		1,386	3,461

- 1) 昭和11年旗山郡勢要覧：旗山郡役所（1937）
- 2) 台湾地名辞典：敷明産業地理研究所研究報告第105号（1960）
- 3) 情報検索

辺ぴな地であった甲仙を豊かな街に変えたのは、1972年の南部横貫公路の開通とサトイモによる地域おこしであった。ここで紹介した林氏は、南部横貫公路の開通後直ぐに移住し、サト

イモ栽培を始め、産業化の基盤をつくった人である。聞き取りをしている最中にも、街づくりに尽くしてきたとの自負心が伝わってくる。

林氏のサトイモ栽培は、台湾の耕種梗概（郁，1999）に照らし合わせても逸脱するものではない。畦間・株間、施肥、管理など栽培要領に沿ったものである。甲仙地域は黄褐色土の酸性土壌で排水が良い。瘠せ地であるが、施肥管理を十分に行うことで良品を生産することができる。連作は2回以上しないことも良品づくりに不可欠である。生産が軌道にのったところに南部横貫道路が観光スポットとして脚光をあび、土産品になったことも生産を後押ししている。1次産品が加工など2次産業を誘発し、サービス産業を定着させて街づくりにつながったものと思われる。

地域おこしは行政の掛け声だけでは難しい。地域住民が地域の特徴を把握し、それをどう活かせるかを考えることがスタート台である。地域をかえたい意気込みと住民コンセンサスが得られて軌道にのるものである。

引用文献

- 陳 正祥 1960. 台湾地名辞典. 敷明産業地理研究所研究報告第105号 (台北市).
- 行政院農業委員会編 2000. 中華民國88年農業統計年報. 中華民国行政院.
- 石 再添編 1999. 台湾地理概論. 台湾中華書局 (台北市).
- 郁 宗雄 1999. 芋. 專業栽培蔬菜30種. 豊年叢書: 90-96. 豊年社 (台北市).
- 旗山郡役所 1937. 郡勢要覽.